

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：23902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02283

研究課題名（和文）グローバルな視座から見る近代日本のピアノ製造の発展メカニズムと音楽文化

研究課題名（英文）The Development Mechanism of Modern Japanese Piano Manufacturing and Musical Culture from a Global Perspective

研究代表者

井上 さつき（INOUE, Satsuki）

愛知県立芸術大学・音楽学部・名誉教授

研究者番号：10184251

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「洋楽器導入後の明治期から昭和前期にかけてのピアノ製造に着目し、その発展メカニズムと音楽文化のかかわりを読み解き、さらにそれを国際的な文脈に置き直す」ことを目的としたものである。文化に根差した製品である楽器を、異なる文化を持つ国が取り入れることは困難が伴うが、日本ではそれが遂行されたばかりか、きわめて短期間のうちにその楽器を量産し、明治期から諸外国に輸出するに至った。それが戦後日本のピアノ産業が急成長する際の土台となったということ、研究を通して明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は日本のピアノ製造に着目し、その独自の発展メカニズムと音楽文化とのかかわりを読み解き、さらに、それを国際的な文脈に置き直したことに意義がある。明治末年にすでに日本の楽器輸出が米国にとって脅威になっていたことが新たに分かり、戦後の日本のピアノ産業の驚異的な発展の基礎が戦前にすでに形作られていたことが実証された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to focus on piano production from the Meiji period to the early Showa period after the introduction of Western musical instruments, to decipher its development mechanism and its relationship to musical culture, and to place it in an international context. It is difficult for a country with a different culture to adopt a musical instrument that is a product rooted in its culture, but Japan not only succeeded in doing so, but also mass-produced the instrument in a very short period of time and exported it to other countries from the Meiji period. Through research, we have shown that this was the foundation for the rapid growth of the piano industry in Japan after World War II.

研究分野：音楽学

キーワード：ピアノ 楽器産業 近代日本 音楽文化 グローバル 国産 ヤマハ カワイ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

明治 20 (1887) 年前後に、ようやく国産化が緒に就いたリードオルガンやヴァイオリン等の洋楽器の製造は、その後急速に発展し、日本の代表的な輸出産業となった。ピアノに関しては、当時の最先端技術の粋を集めた楽器であり、後発国の日本では当初自給が困難だったが、1900 年前後に国産ピアノが作られるようになり、その後は自国技術が確立した。

文化に根差した製品である楽器を異なる文化を持つ国が取り入れることは当然困難を伴うが、日本ではそれが行われただけでなく、その楽器を量産し、諸外国に輸出するようになった。こうした事例は音楽史上、類を見ない。しかし、日本の近代音楽史研究において、洋楽器製造という視点はこれまでほとんど欠如していた。このような問題意識から、私は鈴木ヴァイオリンを軸に、明治期から昭和前期にかけての日本のヴァイオリン製造と音楽文化とのかかわりについて考察したが、本研究はそれに続くもので、戦前の日本のピアノ史に焦点を当てた。

2. 研究の目的

本研究は、洋楽導入後の明治期から昭和前期にかけての日本のピアノ製造に着目し、その発展メカニズムと音楽文化のかかわりを読み解き、さらに、それを国際的な文脈に置き直すことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究の特色は、ピアノ製造を近代日本の音楽文化の展開の中に位置づけると同時に、19 世紀後半の主要なピアノ製造国であった英仏独米など諸外国との関係性に留意し、国際的な楽器製造の文脈に位置づけ、統一的な視点で論じる点にあった。

日本のピアノ製造に関する基礎資料は天災や戦災によってその多くが失われ、現在使うことのできる資料は限られているが、本研究ではそれらに加えて、国内外の各種博覧会報告、国内外の新聞等メディアの記事、さらに領事報告など、さまざまな国内外の資料を活用した。

4. 研究成果

本研究を通して、日本の洋楽器製造が戦前、すでに日本の代表的な輸出産業となっていたことを明らかにした。以下、発表論文や書籍等を軸に、研究内容を簡単に述べる。

まず、2018 c 「山葉寅楠と鈴木政吉：明治期の博覧会とのかかわりを中心に」において、日本楽器製造株式会社(現ヤマハ株式会社)を創始した山葉寅楠と鈴木ヴァイオリンを創始した鈴木政吉が個人的にも親しく、協力して国外の博覧会に出品していたことを論じ、2018 b 「米国領事報告から見る近代日本のピアノ製造」では、米国領事報告を使用して、明治末期、すでに楽器の輸出をめぐって日本とアメリカとの間で貿易摩擦が起きていたことを述べた。さらに、2018a (2022a) 「上海のモートリ商会と近代日本のピアノ製造」では、上海のモートリー商会が、上海において、日本よりも早くピアノ製造を始め、日本のピアノ製造の黎明期に少なからぬ影響を及ぼしたことを論じた。当時の日本の洋楽受容は、コンサートの曲目などからも推察できるように、まだ初歩的な段階だったが、洋楽に関してはモノ作りが先行していた。つまり、戦後の日本のピアノ製造の発展の基礎は、戦前にすでに形作られていたのである。

第一次世界大戦終了後、ドイツから輸入ピアノが激増する中で、日本楽器製造株式会社は一時、危機的状況に陥り、政府に輸入税改正を働きかける。これは同社の重役であった箕輪三郎が残した文書(沼津市明治史料館蔵)から判明した新事実で、2021 b 「1920 年代の日本楽器製造(現ヤマハ)について：箕輪三郎文書を通して」の中で論じ、日本音楽学会全国大会でも高等発表した。

さらに、戦後の状況にも目を向け、2019 「戦後の器楽教育と鍵盤楽器産業」において、戦後の日本のピアノ製造の発展は学校の器楽教育とつながっていたことを述べた。2021a 「万国博覧会と「ピアノ」の誕生」では、現在一般的になっている鑄鉄一体型フレームと交差弦を使った「アメリカン・システム」によるモダンピアノが 19 世紀の万国博覧会を通じて広まったことを論じた。これらの集成として、2020 『ピアノの近代史 技術革新、世界市場、日本の発展』(以下「井上 2020」)を出版した。同書は全 9 章からなり、第 1 章で 19 世紀の国際的なピアノ事情について語ったあと、第 2 章以降は日本のピアノ産業の成立と発展について、世界の状況を視野に置きながら、現代まで扱った。

また、大正末期に輸入楽器に押されていた日本のピアノ生産が昭和戦前期に回復し、独自設計の国産ピアノが量産されるようになった背景に政府の関税政策があったのではないかと、という問いから、2022b 「楽器と関税 1920 年代日本のピアノ輸入税引上げをめぐって」を著し、実際に、戦前の日本ピアノ製造の発展の基礎は、政府の関税政策が後押しする形で形づくられたことを明らかにした。

さらに、ピアノ製作家大橋幡岩が所有していた「大橋ピアノ資料」(現浜松市博物館所蔵)の調査からも、これまでの諸資料を補強するさまざまな事例が見つかり、今後のさらなる展開が期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 井上さつき	4. 巻 17
2. 論文標題 上海のモーター商会と近代日本のピアノ製造	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ミクストミュージズ（愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要）	6. 最初と最後の頁 22-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井上さつき	4. 巻 50
2. 論文標題 1920年代の日本楽器製造（現ヤマハ）について－箕輪焉三郎文書を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 119-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34476/00000768	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井上さつき	4. 巻 16
2. 論文標題 山葉のピアノで歌いましょう－1930年の《国産愛用の歌》をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ミクストミュージズ（愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要）	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井上さつき	4. 巻 48
2. 論文標題 戦後の器楽教育と鍵盤楽器産業	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 141-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上さつき	4. 巻 47
2. 論文標題 米国領事報告から見る近代日本のピアノ製造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知県立芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 123-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上さつき	4. 巻 13
2. 論文標題 山葉寅楠と鈴木政吉 明治期の博覧会とのかかわりを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ミクストミュージズ	6. 最初と最後の頁 43-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 1920年代日本の関税改正とピアノ製造
3. 学会等名 日本音楽学会第72回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 1920年代の日本楽器製造 (現ヤマハ) について一箕輪焉三郎文書を通して
3. 学会等名 日本音楽学会第71回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 万国博覧会と「ピアノ」の誕生
3. 学会等名 万博学研究会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satsuki Inoue
2. 発表標題 The Development of Yamaha's First Electric Organ
3. 学会等名 EMS18（Electroacoustic Music Studies Network）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satsuki Inoue
2. 発表標題 S. Moutrie & Company in Shanghai and the Development of the Piano Production in Modern Japan
3. 学会等名 世界の中国学に関するシンポジウム（上海社会科学院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 万国博とモダンピアノの誕生
3. 学会等名 万国博覧会と人間の歴史（日文研）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 米国領事報告から見る近代日本のピアノ製造
3. 学会等名 日本音楽学会全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上さつき
2. 発表標題 万博と国産ピアノの歩み
3. 学会等名 日文研共同研究会「万国博覧会と人間の歴史」(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 井上 さつき (監修)、森本 頼子 (編著)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 株式会社音楽之友社	5. 総ページ数 208
3. 書名 音楽と越境－8つの視点が拓く音楽研究の地平	

1. 著者名 佐野真由子(編) 井上さつきほか31名共著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 556
3. 書名 万博学 万国博覧会という、世界を把握する方法－	

1. 著者名 井上 さつき	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 288
3. 書名 ピアノの近代史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------